

水環境保全の目標の方向性(案)

良好な水環境(目標)

【水質】

人の健康の保護、生活環境の保全、さらには、水生生物等の保全の上で望ましい質が維持されること。

【水量】

平常時において、適切な水量が維持されること。土壌の保水・浸透機能が保たれ、適切な地下水位、豊かな湧水が維持されること。

【水生生物等】

人と豊かで多様な水生生物等との共生がなされること。

【水辺地】

人と水とのふれあいの場となり、水質浄化の機能が発揮され、豊かで多様な水生生物等の生育・生息環境として保全されること。

これまでの目標、指標

美しさ・清らかさ

環境基準

- 健康項目(公共用水域・地下水)
- 生活環境項目
- 水生生物保全

汚水処理施設整備状況(下水道・浄化槽等)

利用しやすさ

河川の平常時流出量、河川維持流量
保水・浸透機能、地下水涵養量
湧水量、森林・緑地面積
治水安全度、水供給量 等

水生生物の多様性

水生生物の生息状況

生物にとってのすみやすさ

親水空間面積(延長)
自然河岸延長
水環境健全性指標(みずしるべ)
今後の河川水質管理の指標について(案)

目標、指標の検討の方向性(案)

美しさ・清らかさ

常時監視する必要のある項目について環境基準の設定
底層DO、透明度等の指標の検討
水生生物保全環境基準の項目追加
衛生指標(大腸菌、病原性微生物)等

水生生物の多様性

水生生物の生息種類数
象徴的な生物(ホタル、メダカ、サケ等)の生息状況 等

人と水とのふれあい

ウォーターフットプリント
水辺保全活動団体数
“川ガキ”の数 等

達成手段についての検討、
目標達成状況のフォローアップ、
PDCAサイクルの確立

(参考)健全な水循環系構築のための計画づくりにおける数値目標の設定例

表 5-3 数値目標の例

指 標	数 値 目 標	設 定 根 拠	
流域の貯留浸透・かん養能力の保全・回復・増進（水を貯える・水を育む）	流域浸透量 ／地下水かん養量	年間総流域浸透量／年間地下水かん養量 〇〇mm/年	自然状態の浸透機能を有していたと思われる昭和20年代の値 既設井戸への悪影響（取水障害）の回避
	浸透施設普及率	浸透適地の住戸に対して普及率 〇〇%	実現可能な割合から設定
	平常時流出量	年間流出高 〇〇mm/年	水循環が流域内で完結していた昭和25年の値
	河川流況	平水流量 〇〇m ³ /sec	非常に豊かな水量が流れている現在の流量の維持
	自然系流量	最小地下水流出量 〇〇m ³ /sec	豊かな自然が残っていた昭和30年代頃の値
	表面流出量	昭和40年の値〇〇mm/年	過去の内水被害発生状況から設定
	流出率	年間流出率〇〇	現在と過去の中間時点を設定
	治水安全度	50mm/hr 降雨に対して安全	既定の治水計画または下水道計画に準じて設定
		治水安全度 1/50 の確保	既定の治水計画に準じて設定
	農地面積	農地面積〇〇ha	現状の農地の存置
森林・緑地面積	森林・緑地面積率〇〇%	現状の森林・緑地の存置	
水の効率的利活用 （水を上手に使う）	水供給量	生活用水〇〇m ³ /日 農業用水〇〇万 m ³ /年 工業用水〇〇m ³ /日	新たに生じる水需要量に対する安定的な供給
	生活用水使用量 原単位	〇〇ℓ/日/人	節水機器等の活用により達成可能な〇〇%削減を設定、または全国平均値と同等にまで減少として設定
水質の保全・向上（水を汚さない・水をきれいにする）	河川水質 （水道水源水質）	アンモニア性窒素〇〇mg/L（年間95%値）以下など	浄水施設の緊急対応の可能性や浄水場の処理能力から設定
	河川水質	BOD75%値 〇〇mg/ℓ	環境基準値 〇〇が息できる水質 川にはいって遊べる水質
	下水道処理人口普及率	人口普及率〇〇%	現行の下水道計画に準じて設定
	合併処理浄化槽設置率	下水道未普及区域に対して 〇〇%	実現可能な割合から設定
水辺環境の向上（水辺を豊かにする）	自然河岸延長	自然河岸延長〇〇km	現状の自然河岸の維持
	親水空間面積	親水空間面積〇〇ha	現状の5割増し

出典:「健全な水循環系構築のための計画づくりに向けて」(健全な水循環系構築に関する関係省庁連絡会議、平成15年10月)